

群 教 セ	G02 - 02
	令 6. 287 集
	社会 - 小

児童が主体的に学習問題の解決に向かう 小学校社会科指導の工夫 ——調べ学習における資料の読み解きと対話を通して——

特別研修員 倉田 有希

I 研究テーマ設定の理由

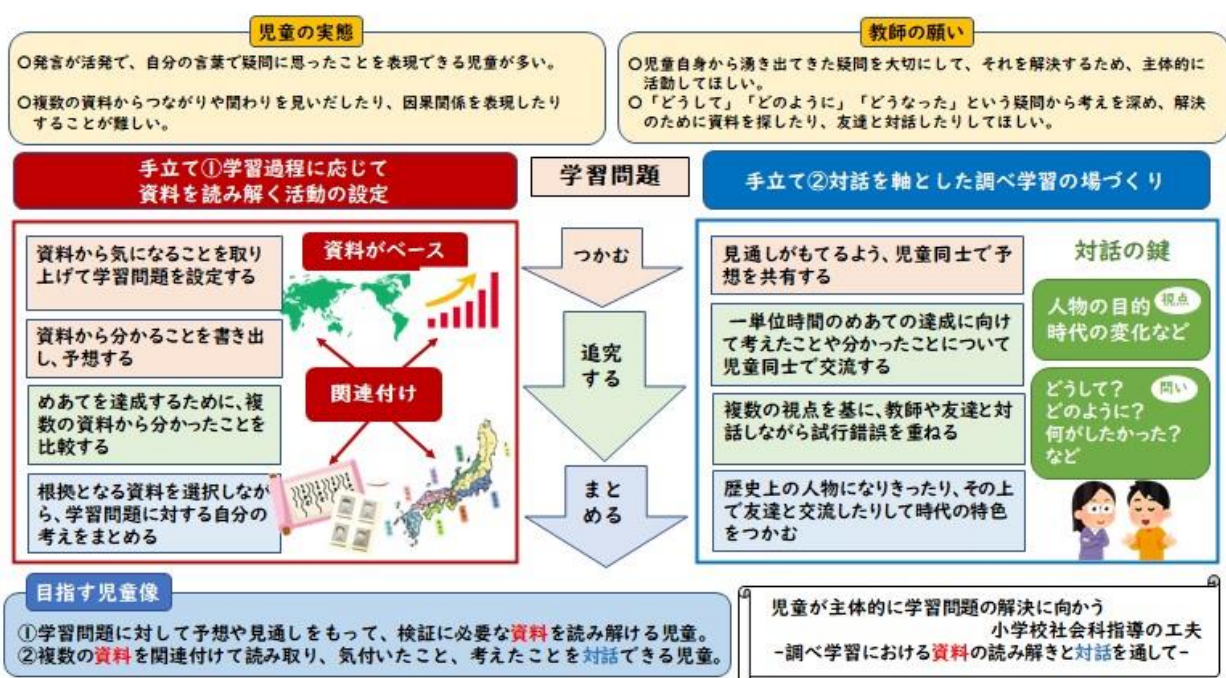
第4期群馬県教育振興基本計画「群馬県教育ビジョン」は目指す学習者像①に「自らが主語となる学びをつくり、深めていく」と定めている。学校では「子どもが自分で興味を持つ分野をより深く知ろうと取り組んだり、子どもたち自身が自分で取り組むべき課題を考えて、その解決に向けて必要な手段を探して努力したりしていくこと」を、教師は支援する立場であるとしている。さらに、「令和6年度学校教育の指針」では、社会科指導の重点として「児童生徒の考えの根拠となる資料を精選し、その資料から読み取らせたいことを明確にする」ことと「児童生徒の考えを深める交流活動（伝え合う、考えを発展させる、合意形成に向かう等）を設定する」ことを挙げている。そこで、資料を調べて自分で考えることや、考えたことを友達と伝え合う場を設けることで、児童が主体的に学習問題の解決に向かうよう支援を充実させたいと考えた。

研究協力校の児童は、社会科の学習が好きな児童が比較的多く、教えた内容を理解したりグラフを読み取ったりする能力はある。しかし、教科書や資料集を使って自ら課題の解決に迫ったり、資料を根拠として自分なりの意見を述べたりすることは難しい。このような児童が、資料を基に歴史上の人物の思いや考えを読み解き、根拠となる資料とともに調べたことを友達と対話できるようになると、更に学習意欲が高まり、学習問題の解決に近付くだろうと考えた。

さらに、デジタル共有ノートに、自分の考えを表す付箋を貼り、考えの根拠となる資料を示しながら友達と対話するなど、調べ学習における資料の読み解きと対話を重点的に支援していくことで主体的に学習問題の解決に向かう児童を育成できると考え、上記の通り研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

「資料を読み解き、対話ができる」児童を育成するために、二つの手立ての実践を試みた。

手立て1 学習過程に応じて資料を読み解く活動の設定

手立て2 対話を軸とした調べ学習の場づくり

手立て1における「つかむ」段階では、その時代の年表や資料を参考に、時代の流れを予想する活動を取り入れる。年表中の気になるできごとを各自取り上げ、学習問題とどのように関わっていくのかを考える。単元によっては、各自が気になる資料を取り上げて予習をする活動も取り入れる。

「追究する」段階では、本時のめあてを達成するために個人やグループで複数の資料を使って調べ学習を行い、分かったことを比較する。「まとめる」段階では、自分の考えの根拠となる資料を選択しながら学習問題について自分なりの言葉でまとめていく活動を行う。

手立て2における「つかむ」段階では、各自の調べ学習の後で、それぞれが予想したことや調べたことを共有する。それにより、友達の考えに触れたり、自分が調べなかった資料について考えたりできる。このような活動は単元の学習に見通しや問題解決への意欲をもつことに効果的である。

「追究する」段階では、個人やグループでの調べ学習の後、教師や友達との対話でめあての達成に向かっていく。その際、複数の資料を関連付けた上で時代の変化や人物の目的などの視点がもてるよう教師が問い掛けたり、児童同士で話し合わせたりすることで、児童は試行錯誤を重ねながら、主体的に学習問題を解決に向かえるようにする。「まとめる」段階では、考えを交流するほか、自分の考えをもって歴史上の人物になりきり、別の人物になりきった友達と対話する活動などを取り入れる。これにより社会的事象を自分ごととして捉えられるようになり、時代の流れや当時の人々の考えをつかみ、主体的に学習問題の解決に向かえるようにする。

Ⅲ 実践例

1 単元名 「戦国の世から天下統一へ」（第6学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、学習指導要領における（2）イ（ア）にあたる。「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が天下統一されたこと」を理解できるようにする内容となる。織田・豊臣に関わる事象を関連、総合させて戦国の世の統一に果たした二人の役割を考える。ここでは、当時の世界の動きが分かる地図を活用しながら当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視点から捉えられるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目 標	(1) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解できる。（知識及び技能） (2) 世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え、適切に表現できる。（思考力、判断力、表現力等） (3) キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。（学びに向かう力、人間性等）
評価 規 準	(1) 知識・技能 ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が天下統一されたことを理解している。 (2) 思考・判断・表現 ① 世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え、適切に表現している。 ② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。

	(3) 主体的に学習に取り組む態度 ① キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・資料「長篠の戦い」「1570年ごろの主な戦国大名」を基に、このころの様子を話し合う。
	第2時	・年表を基に予想し、学習問題を作り、学習計画を立てる。調べ方やまとめ方についても話し合う。
追究する	第3時	・この時代の日本が外国とどのように関わっていたのかを、資料や教科書本文を基に調べる。戦国大名がヨーロッパと進んで関わろうとした理由について話し合う。
	第4時	・資料や教科書本文を基に、織田信長が、天下統一に向けてどのようなことを行ったのか調べる。信長の取組と天下統一とのつながりを話し合う。
	第5時	・資料や教科書本文を基に、豊臣秀吉の取組を調べる。秀吉が作ったきまりは、世の中にどのような影響を与えたのか話し合う。
まとめる	第6時	・信長と秀吉の取組を整理する。二人の武将が行ったことを図に整理し、学習問題についての自分の考えを書く。信長と秀吉の取組のうち、天下統一について特に重要だったものはどれかを考え、話し合う。

3 授業の実際

本時は全6時間計画の第6時に当たる。単元を通しての学習活動として「織田信長と豊臣秀吉の政策の目的を考える」ことを設定し、二人の思惑を考える活動を通して政策の共通点や相違点に迫れるようにした。

(1) 手立て1「学習過程に応じて資料を読み解く活動の設定」について

第2時では、単元の学習問題を作り、学習計画を立てた。その際、織田信長と豊臣秀吉の年表を見比べ、それぞれが行った取組が政治政策と経済政策どちらに分類できるか予想する活動を行った。第4時、第5時では、織田信長と豊臣秀吉の政策についてグループで調べる活動を行った。児童は教科書、資料集に掲載されている資料を基にして、それぞれが行った政策の目的や利点を比較しながら考え、各政策を政治政策と経済政策に分類した。「政治政策か、経済政策か」という視点を与えることで、複数資料から導き出せる政策の目的まで考えることができた。本時となる第6時ではこれまで調べてきた内容についてまとめ、学習問題の答えとなる意見文を書く活動を行った。織田信長と豊臣秀吉の政策を復習しながらシンキングツール内の付箋に書き出し、各自がその政策の中で天下統一のために重要だったと思う政策を織田信長と豊臣秀吉から一つずつ選んだ。根拠となる資料と共に自分の考えを出し、友達と交流してから意見文を書く活動に入ることで、友達の意見も取り入れた意見文を書くことができた。

(2) 手立て2「対話を軸とした調べ学習の場づくり」について

第2時では、織田信長と豊臣秀吉の政策について予想する活動の後、グループで相談しながら分類しているうちに、「楽市・楽座」など、未習の用語に興味をもち、「先を見て調べてもよいか」という質問が多くの子から出るなど、これからの学習に意欲を見せる場面があった。さらに、織田信長と豊臣秀吉の政策の共通点を見付けたり、特徴的な点を見いだしたりすることで、「なぜ二人とも城を建てたのか」といった学習問題の解決に関連する疑問が児童から出てきた。

第4時、第5時では、織田信長と豊臣秀吉のそれぞれの政策について、政治政策と経済政策どちらにより近いかを話し合った。児童たちが資料を見ながら「『百姓が刀、やり、鉄砲などの武器を持つことを固く禁止する』とあるから、刀狩は反乱を防ぐための政治的な取組ではないか」「『でもその後に、取り上げた刀などは大仏のくぎにする』とあるから、お金目的でもあったのではないか」などと話し合う様子が見られた。最後に全体で政策の目的については確認したが、「政治政策に分類できるか、経済政策に分類できるか」については各自の解釈に任せたため、児童は正解にこだわらず自分の考えをノートに書いていた。

本時となる第6時では、児童はシンキングツール（図1）を利用して、織田信長と豊臣秀吉の政策の中でどれが天下統一に向けて重要だったか、それぞれの政策は政治政策、経済政策、どちらの要素が強かったかについて、資料を根拠として話し合う活動を行った。児童たちの間では互いの出した付箋を見合いながら、「同じことを考えているね」「そのことが説明できる資料はないかな」と分かったことを比較したり、更に別の資料を探したりする様子が見られた。また、「堺を支配することは自分で鉄砲を独占できて敵に鉄砲を渡さない、一石二鳥の働きがある」などという対話が見られ、発表会に終始しない自然な対話が見られた。

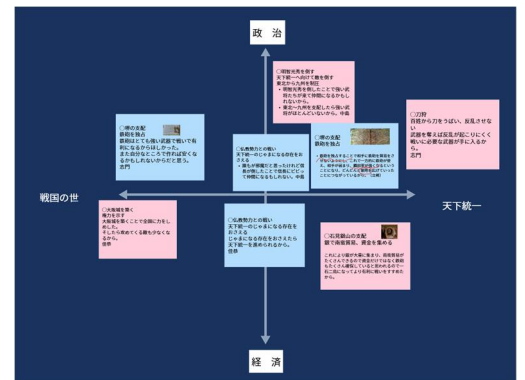


図1 シンキングツール

(3) 考察

「社会科は資料が命である」とよく言われる。しかし実際、6年生の歴史編の資料は5年生までのグラフ中心となる資料と異なり、児童たち自身に読み取らせたり解釈させたりすることが難しいと感じていた。そこで、「複数資料を基に歴史上の人物の意図や目的を考える」「目的を政治政策と経済政策に分類する」といった視点を与えることで、児童に複数資料から読み取るべき内容の見通しをもたせることができた。さらに、「資料を基に考えたことを友達と話し合う」活動を取り入れることで、児童は自分の考えと友達の考えを比べたり、自分の考えを友達に説明したりする必要性に気付くことができた。学習問題の解決の見通しをもてたことや、対話を通して考えを深めていったことにより、児童は主体的に学習問題の解決に向かうことができた。

IV 研究のまとめ

1 成果

複数の資料を読み解く際に「共通点又は相違点は何か」や「経済政策と政治政策のどちらに分類されるか」といった視点を与えることで、歴史上の人物が意図していたことを児童自身で浮かび上がらせることができた。

「つかむ」段階では予想を、「追究する」段階では調べたことを、「まとめる」段階では考えたことを話し合い、児童同士の対話を重ねる活動が続けることで、児童は自分の考えを整理したり、友達の考えを取り入れて意見文（図2）を書いたりできるようになった。

<織田信長>
城下町を発展させ、いつでも戦いに行けるように備えていたり、楽市・楽座で物資の流通を活発にさせたり、南蛮貿易をしたりと、政治と経済の両方をバランスよく行っている。

<豊臣秀吉>
検地や刀狩で確実に年貢を納めさせていたり、石見銀山を支配して貿易を活発にしたりと秀吉は経済面のことを多めに行っており、そこが違いだと思った。

だけどどちらも天下統一を目指していたり、貿易を大事にしたり、共通するところもあったと分かった。

図2 児童の意見文

2 課題

自分の考えを補強する材料として、根拠となる資料を提示することに難しさを感じた児童が多かった。学習問題の解決に資料を有効活用している児童を紹介するなど、学習状況を見取りながら支援を加えていくことが必要である。

活発に話し合いをしていたグループがある一方で、誰かの発表（用意した付箋を読み上げる）に対して拍手をし、次の発表に移るといった活動のグループもあった。「拍手はしないで、相づち、質問、感想などを伝えるように」と指示をして、対話を促してもよかったかもしれない。また、4人グループで交流をしたが、それぞれの考えをデジタル共有ノートで公開しておいて、気になる意見について自由に話を聞きに行くという活動を取り入れると、もっと交流が深まったかもしれない。